

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 4 月 9 日

【評価実施概要】

事業所番号	2172101269		
法人名	有限会社 賃貸ルーム		
事業所名	グループホーム てんじゆ		
所在地	大垣市万石 3 丁目 1 4 番 1 (電話) 0584-83-3339		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町 3 丁目 7 番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年3月24日	評価確定日	平成20年5月9日

【情報提供票より】 (平成 20 年 3 月 1 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 27 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 9 人, 非常勤 12 人, 常勤換算	16 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	16,000~ 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	250 円	昼食 250 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		1,100 円

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 3 月 1 日 現在)

利用者人数	18 名	男性 8 名	女性 10 名
要介護 1	2 名	要介護 2	2 名
要介護 3	8 名	要介護 4	4 名
要介護 5	2 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 54 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	名和病院・デンタルクリニックカノウ
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは新興住宅地にあり、地域になじめるよう敢えて大きな看板は掲げず、前の庭には季節の花が植えられている。リビングの壁一面には枝が作られ、利用者が季節毎に折り紙や張り紙で花を咲かせている。この壁面を飾る作業が利用者の大きな役割であり、支えとなっている。また、職員はケアと業務を業務日誌や記録物で認識しながら、日々、利用者の生活を支えている。個人個人での町内老人会への加入も検討している。年2回のバス旅行も開催し、利用者の大きな楽しみとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題であった市町村との係わりについては、自治会の「安全パトロール活動」の登録を利用者全員が行い、20年度は地域で開催される介護教室への参加を予定している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者と職員で担当分けし全員で取り組み、話し合った。日々の業務を見直す良い機会として捉えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3ヶ月に1度、運営推進会議を開催しており、日ごろの活動の報告やヒヤリハットの改善点など、その時々に応じた話し合いをしている。参加者である地域包括支援センター職員・自治会長・民生委員などから意見をもらっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見・苦情等は、面会時だけでは引き出せないこともあり、無記名のアンケートを実施し、改善に繋げている。また、利用者本人の思いは「本人会議」という機会を設けて話しやすい状況をつくり、聞き出している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常的に散歩・買い物・ドライブに出掛けた折には地域の人と挨拶をしている。町内会の盆踊りに参加したり、野菜を頂く事もある。また、近所の人から介護について教えて欲しいとホームに来た際には、分かりやすく教えている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に『地域の中で暮らしを継続』という項目があり、パンフレット等にも盛り込まれている。入居前の暮らしを大切にしつつ、本人の『生きる力』を引き出し、ホームでの生活になじめるよう支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、目につきやすい場所に書かれてあり、日々確認できるようにしている。また、月1回のミーティングで理念の再確認をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の夏祭りに参加している。また、市の推進事業である『安全パトロール活動』に登録し、子どもの下校時間に合わせて散歩することで役割を担い、近隣とも顔見知りになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価では、項目によって管理者・職員と分担して受け持ち、自己評価を行った。この評価を「振り返りの場」として捉え、日ごろのケアのあり方を再確認し、話し合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1度公民館を借り、自治会長・民生委員・福祉推進委員・家族の参加で行っている。ヒヤリハットや問題発生の報告をし、改善に繋がるよう意見をもらっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員がホームへ来所した際には、率直な意見をもらっている。市の担当者にも情報や助言をもらい、日々の暮らしに役立てている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運営推進会議の開催に合わせて家族会も開き、その際、日々の暮らしぶりについて報告を行っている。月に1回の金銭報告時には、個別に手紙を添えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に口頭で苦情相談窓口を案内し、行政のパンフレットを渡している。入居後は無記名のアンケートを定期的に行い、満足度調査を行っている。	○	重要事項説明書の中に苦情窓口の記載がないので、さらに、家族の安心を得るためにも明記されたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での異動は今までに1度あったのみである。新入の職員に対しては管理者がマンツーマンでつき指導にあたり、利用者には不安を与えないよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度毎に研修計画を立て受講をすすめている。参加希望を募り、勤続年数や研修日数に合わせ出席してもらっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者同士の交流はあり、情報は職員にも共有できる仕組みとなっているが、職員同士の交流には至っていない。	○	現場の職員が、他のグループホーム職員と交流する事で知識の広がりや励みとなることもあるので、交流の場を設けられたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時に自宅へ訪問したり、ホームへの見学を勧めている。何度か日中過ごしてもらう事で本人・家族の安心を得ている。入居に抵抗がある場合は、入居前に何度かホームに来てもらい、ホームからなじみのスーパーへ出かけることを繰り返し、徐々になじめるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年2回のバス旅行や月1回の季節料理の日は、利用者の大きな楽しみとなっており、職員と共に企画から行っている。利用者から教わる事も多い。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「本人会議」という利用者意見を引き出す場面作りを設定している。思いを言えない利用者には、普段の何気ない会話から、他の利用者が代わりに答えてくれる。その意見を大切にし、日々のケアに役立てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	初回の介護計画では、入居前の暮らしが継続できるように在宅時のケアマネジャーや家族から心身の状況を聞きだし、暮らしぶりの確認をし、作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月ごとの見直しを行っている。日々のケアの中で聞き出した本人の意向は、経過記録に記入し、状態変化時にはケア会議を開催し、評価・見直しを行い、ケア方針をたて、新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助支援を行い、家族への病状等の説明も分かりやすく行っている。入院となった利用者の洗濯を家族に代わって行う事もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望の医院への受診は、家族の協力が必要な事を説明しているが、家族が出来ない時はホーム側で支援している。風邪など状態変化時は医療連携を活かし、すばやい対応で家族の安心を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には終末期に対しての意向確認はとっていないが、入居後、家族会やアンケートで本人及び家族の意向を確認している。看取りについては、今後、前向きに取り組んでいく予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	以前受けた家族からの指摘を真摯に受け止め、言葉遣いについては特に気をつけ、尊厳に配慮した上で穏やかな声かけをしている。個人情報開示に関しては、その都度、同意をとっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日頃から話し合い、ケアは利用者本位にと考え寄り添うケアを、また、業務は利用者の生活が一人ひとりのペースを大切に、黒子となるよう心がけて業務を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れた献立作りや手作りおやつの日を設けている。季節の料理や外食、出前など様々な機会をつくり食の楽しみを味わえるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行われており、本人の入浴したいサインを見逃さず、気分良く入ってもらえるようにしている。また、入浴拒否の強い利用者には、入浴券を発行したり時間を変更し、入浴をより楽しいものになるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者毎に役割があり、食器拭きやカーテンの開閉などのほか、町内のパトロールも行っている。利用者同士で決めたルールのもと、毎日百人一首を楽しんでいる。訪問販売によるパンの購買も楽しい習慣となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年2回のバス旅行は、利用者の大きな楽しみとなっている。喫茶店へ出掛ける以外にもパトロールを兼ねて散歩や買い物に出掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯のみの施錠で、外へ出て行く利用者に対してはマンツーマンで職員がつき、一緒に歩くようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者と消防署員の参加で、防災訓練が年6回開催されている。備蓄品の用意や緊急連絡網も整備されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録があり、様子観察の一つとしている。保健センター等管理栄養士の指導を受け、月に1度は体重測定することで健康管理に繋げている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	みんなが集まるリビングは明るく、南向きに窓が大きく取ってあり、採光・通気が良い。畳コーナーが設えてあり、昼寝などのやすらぎの場所となっている。みんなで作っているリビングの壁画で季節を楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの家具やベッドの持ち込みで、個性ある居室作りがされている上に、作り付けの大きな目の棚があることで、使いやすい部屋となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。